

“ふじのくに”^{しみん}士民協働 事業レビュー結果

(文化・観光部)

事業	13	事業名	美術館運営事業費
----	----	-----	----------

1 基本情報

実施日／班名	9月7日 第2班	時間	10:20~11:53
担当課名	文化政策課	事業費	424,000 千円

2 レビューの結果 施策目的に対する効果の程度

結果	一定の効果がある	判定区分	県民評価者の内訳	
			大きな効果がある	2
			一定の効果がある	29
			あまり効果がない	12

3 県民評価者の意見（レビューシートから転記、下線があるのは口頭で発表された意見）

(1)見直し・改善策

目的・指標	<ul style="list-style-type: none"> ①芸術や文化を鑑賞した人の割合 90%（これまでの実績は 60%ぐらい）、②芸術や文化の活動を行った人の割合 50%（これまでの実績は 20%ぐらい）、何でここまで高い目標にする必要があるのかよく分かりません。①②以外の方法で文化に触れる方法あります（例：読書など）。美術館運営事業ということなので、どうしてもこのような目標設定になると思いますが。 細かい目標数値が必要であり、達成できなければ毎年改善を繰り返していくべき。全体の目標も必要だが、個別の目標も重要である。 中間設定値が定められないならば、H29 目標を設定すべきではない。 H29 に目標を達成するために、中間シュミレーションも無しで、本当に目標が達成できるか疑問である。 目標の数値には無理がある。
対象・範囲	<ul style="list-style-type: none"> 「子どもたちを中心に」とありますが、子どもが関心を持つ美術館の展示会はあまり開催されていない。多感な時期の子どもの「心を打つ」ものを取り入れていく必要がある。 子ども達を中心に進めるということで、入館料を無料にしてもらったことはとてもよいと思うが、実際、私の小学生の子どもはまだ美術館に行っていません。もっと子供達が行きたくなるような企画をお願いします。 子どもが文化にふれる機会を増やしたいのか、県民全般に同様の機会を増やしたいのか、施策の対象が曖昧である。 絵画の鑑賞などは、好きな人は好きで何度も美術館を訪れるが、無関心な人は一度も訪れないという、人を選ぶものだと思う。好きな人をもっと好きに＝「リピーターを大切にする」という視点も、もちろん大切だが、数でいうと無関心な人達の数の方が圧倒的に多いと思うので、美術館としていかに見に来る人に「壁」をつくらないようにするかも熟慮すべきである。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 東部や西部へのPRが弱いのではないですか。 アニマルワールドを開催中と聞きましたが、知りませんでした。宣伝不足もあると思います。美術館近くの学校、幼稚園などに宣伝のチラシなど配るのも良いのではないですか。年何回か行う体験系なども、年度初めに学校等に年間スケジュールを配れば参加できる人が増えると思います。

事業内容

- ・私自身、県立美術館へ行ったことがない。東部在住ということもあり、静岡市へ来るよりも、東京で開催される美術展をよく見に行く。魅力ある展覧会をぜひ開催してほしい。
- ・観覧者数がH24とH25で約2割減なのは、県民の意向、志向とズレがあるのではないかと。また、H25とH26（見込み）で来館者数が約二割増の策を聞いたかった。
- ・来館者を多くする努力が少ない。
- ・「子どもたちを中心に～」とありますが、実際に学校の授業の中で美術の授業はどのような位置にあるのか。週何回行くのか？子どもたちの美術に対する関心は？子どもたちは基本的に学校の授業で学んだことを大切にしていこうと思う。ただ美術館に行かせただけでは、文化についての興味・関心がわいてくるとは限らない。「美術＝楽しい」だけではなく、学ぶ姿勢も大切。子どもを中心に考えていくと、美術館はテーマパークという位置になってしまうかもしれません。「学ぶ場」であり、学ぶ楽しさに気付かせるそんな機関に美術館を育ててほしいです。
- ・静岡県立美術館は、静岡市民にとっては身近ではありますが、離れた浜松、富士などからしたら遠い存在です。わざわざ足を運んで観に行く価値がある企画を出してほしいです。
- ・静岡出身のアーティスト、芸術家の展覧会を増やしてほしいです。
- ・美術館展覧会の出張展示会を検討してください。
- ・所蔵している美術品等を、より効率よく活用するための新たな考えが必要です（毎年同じ展示物と同じ観覧人によってマンネリ化しているのでは）。
- ・遠方から来る方への割引など、西部、伊豆地方からの来場者を増やすための工夫が必要です。
- ・他県の美術館との所蔵品貸借による来場者の向上。
- ・県立美術館を観光ルートへ組み入れてもらう。
- ・各文化団体に対して、積極的に来場をお願いする。
- ・来場者を増やす、またはリピート者を多くする方法として、小中高の遠足時に美術館を組み入れる（年齢とともに同じ美術品でも見方が変わってくる）。
- ・芸術品だけでなく、一般人作成のキャラクター弁当・手づくり服等の展示をする。
- ・静岡県中部の県民は美術館に来ることができるが、西部・東部の人には来ただけで一日がかりになり現実的に来られない。よって地方での開催をしてほしい。
- ・美術館の運営が比較的健全なのは良いが、リピーターが非常に少ないのは結局刺激的な企画展とマスコミを通したPRに依存しがちな現実を物語っていて、文化芸術の振興への取組という目標からずれているのではないかと。
- ・数値目標にこだわった議論になったが、芸術と数値という相反する議題は難しいもの。学芸員の力量頼みな企画運営もいかなるものかといった感じであり、職員ももっと文化史の勉強をする一方で、一般アンケートで来所者視点の企画を展開できればいい。
- ・県立美術館に来てもらうだけでなく、地方や学校などで普及事業を行ったらどうか。
- ・磐田市では、市民会館で子供達の作品を展示しています。あと、文化資源として発掘したものは図書館などで展示しています。県の取組としては大きく捉えて、夏目漱石とか伊豆の踊り子、富士山の魅力が重要ではないでしょうか。
- ・県立美術館ということなので、第一に県民の人が興味を持ってもらえるような展示会をしてほしい。25年度の富士山の絵画の時は、17,781と他の時とは比べて多くなっているので、地元を感じられるものがよい。
- ・優秀な学芸員の確保。
- ・地域とより連携をする。
- ・子供に力を注ぐのであれば、教育の一つとして授業に取り込むことをしたらどうか（県内学校は必ず年一回行く）。
- ・小中高校へ行って生の声を聞き、何をすれば利用が増えるか感じてほしい（アンケートでは本当の声は聞けない）。博物館に行かない人の意見を聴くべきである。
- ・総コスト 560,000千円で民間に運営を任せれば、もっと入場者数が増え、文化芸術に触れる人が増えるのではないかと。（アミューズメントパーク運営会社又はイベント会社から見積りをとってみては）

事業内容

- ・リピーターとしての魅力を感じることで、常設の作品の充実と、企画の部分での斬新なことの取り入れを望みます。・有名な画家の展示を年に一回以上開催していただきたい。
- ・目標及び施策の裏付けが弱く感じられる。また、美術館としてのイメージ・コンセプトの確立、メディア戦略、美術館と他の施設・団体との連携の深化が施策の効果を高めると考えられる。
- ・他市・企業などの美術館に収集品を貸し出す。また、他市・企業の収集品をお借りして展示する（交流展示）。
- ・ロダン館の活用。1～2度見学すると足がむかない。
- ・見学者を増やすためスタンプラリー（美術館→動物園→久能山→その他）などを活用する。
- ・議論の後半に出た、美術館のコンセプトをいかに知ってもらうか、この点は数値目標の達成度より大事ではないか。
- ・「子供たちを中心に」の観点から、参加体験型だけではなく、学校の美術の教科で定期的に美術館を訪れる授業内容にしていくべきである。子どもへの発信は、大人、地域へと広まり美術館がより身近な存在になることに繋がっていく。
- ・美術館の低料金化、無料化を実現していく。
- ・他県との差別化という視点が必要であると思うが、東京都は別として考えることの意味が分からなかった。確かに、振り分けられる予算や人員などの数に差はあると思うし、入館料にしてもいくらかの差があるけども、それを抜きにしても、なぜその来場者数に達しているのか、それは静岡にも取り入れられないのか、静岡色に変えて興味をひく形にしていくなど、できている地からの学びも重要だと思う。視野を広くした後に、ギュウッと凝縮して静岡に焦点をあてることも必要。
- ・現在、行われているものが県民に伝わっていないこと、プロモーション方法にも問題があるのではないか。（中身も重要だが、知ることがなければ興味がわくことも無いので）
- ・美術館の休館日を見直しが入館者数の増加につながりませんか。現在、月曜日固定ですが、例えば、第二第四火曜日休館、第一第三月曜日休館にすれば、月曜日定休の業種の県民が観覧できるようになります。
- ・庁舎や園地の管理について、設備管理の民間委託は可能ではないか。学芸員を含め、収集品管理は直営、外箱の管理は民間、監視は県、分業運営の検討を。
- ・予算の半分を占める庁舎・園地管理事業費をいかに減らすかがポイントになる。
- ・子どもと大人の目線は違うので、各展覧会では、子どもたちは楽しめないような気がした。子どもたちには、まずきっかけとして教育普及事業の中で行っている「体験系」の事業を数多く行うといい。また、一般家庭の子供たちが、週末に「美術館に行こう」という選択肢を持っているとは思えないので、小中学校との連携・協働が必須である。（授業の中で、美術館を見学、体験活動を実施など）
- ・インカ帝国展や草間さんの展覧会の入館者数からも分かるように、大衆は話題性やものめずらしさに食いつきます。東京の美術館などは、話題づくりや新しいスタイルを築くという点に特化しているので、見せ方など参考にしてできる部分もあるのではないのでしょうか。私も日頃よく利用しているので、「地方なのに、こんな斬新なことをやっているんだ！」と話題になるような美術館になってほしいです。
- ・美術に関する出張講座を、小学校、中学校、高校などで行うことで、若い人々が身近で美術に接することができて良い。
- ・「企画展」に集めた人を、県、市町の美術館・博物館へどう流していくか（静岡県の文化価値、魅力を、地元の人々がもっと認識していくための工夫も必要では）。このためなら、もっと予算がついてもよい。
- ・ターゲット別の情報発信の工夫はどんなされているか（広報手段、内容の細分化も必要では）。広報が問題になってくる。事業自体は良いものです。
- ・厳しいのはあるが、少しでも多く学芸員を増やす。専門性は大事なので。
- ・広報活動の見直し。HPやチラシのデザインなど。もう少しお金をかけたほうがよい。
- ・多彩な企画で、リピート率をUPする方策を。

事業内容

- ・文化というものは目で見えにくく、芸術的観点からの「文化」と、習慣といった意味で「文化」と捉えるかで全くの別物。そのため基本方針の「ささえる」という点を実現する施策が見当たらない。
- ・数字の根拠がはっきりしていない。分析に力を入れていただきたい。(割合ではなく、実数で把握したほうがよい)
- ・美術館運営の施策目的について、対象を子供達に向けたり、教室を基に活動していることなどは実に評価できます。また、先般、意見に出ているように、様々な場所などと連携して運営にあたる。そして、文化をより身近な位置づけにしていくほうが、魅力につながっていくのではないのでしょうか。
- ・芸術をPRする意味と、アマチュアの文化を広げる意味の両面にわたって、ふところを広げてもらいたい。
- ・リピートが少ないため、リピートを増やすための努力提示が足りない。
- ・遠方から来てもらうとなれば、静岡県としてみたいというタイムリーな企画でない。遠くからも来るように。
- ・各地の美術館、博物館から「お宝」を集めて、中部の人も西部の人も東部の人も見に来てくれるような企画を。
- ・動物園、日本平、東照宮等とスタンプラリーをやって、達成者には感謝されるようなものをお渡しするなど、目線を下げて広く県民に足を運んでもらう方法をとってはどうか。
- ・美術館で、一般の方(障害者の方)の作品を展示してもいいのでは。

(2)その他の意見

- ・来館者の年代別の数字が知りたかった。
- ・芸術を学ぶ学生(大学)の進学率は上がってきているのか。
- ・大学二年、高校三年の息子がいますが、スポーツばかりに明け暮れて、全く芸術に触れる機会をもってきてませんでした。もっと触れ合える機会を親として知っていたかった(情報が少なかった)。
- ・目標の中に「子どもたちを中心に」と掲げられている(子どもが文化芸術に触れることは重要であると思います)が、しかし大人はどうでしょうか。
- ・美術館(待ち合わせに使わせていただいています)→平澤寺→日本平ハイキングコースを見直してほしい。
- ・富士山の世界遺産に対し、見て楽しむ部分で一番不利なことは、静岡県側からみると送電線、電柱が多すぎる。県として高さ規定や電線の地中化等条例が必要では。
- ・これまでの改善状況にある、指定管理者制度導入を検討したメリットデメリットを表示してほしい。
- ・第三者評価委員会意見への対応状況に「職員全員がアイデアを・・・」とあるが、どのような経験の職員でしょうか。
- ・美術館の必要性は理解できるが、本資料では問題が多いように思われた。
- ・美術館の県内来館者目標を立てることが必要。「事業の主たる成果指標」と「美術館運営事業費」が違っている。
- ・庁舎、園地管理費への切り込が少ない。事業予算の50%程度の事業費であるので、もう少し資料が必要。
- ・数値目標は、なぜ成人男女が対象なのか。
- ・県立美術館に行く魅力がない。お金をかけて先生を呼ばなくていいので、浜松学芸大学の生徒など集めてやったらいい。
- ・少し難しい話と感じてしまいましたが、美術館に一度も行ったことがないので行ってみたいと感じました。
- ・テーマは誰が決めているのか
- ・収蔵品展の観覧者が少なすぎる。

- ・数値目標に関する意見ですが、美術館の意識として、アート部分が身近な文化であるという認識や概念を考えた場合、少々身近な美術、個人のアートの分野まで購入の範囲を広げたほうがよい。
- ・美術館があるのは聞いたことはありましたが、何をやっているのかも聞くことがなく、一度も行ったことが無いので、話が難しい。
- ・県立美術館に来るまでもない企画展のような気がする。
- ・来館を促す仕方を考えたほうがよい。
- ・年間来館者数は20万人を常に超しているが、どの年代が多いのかが書かれていなかった。例えば、若い人の来館者数が少ない場合はどのようにすれば増やすことができるか考えてほしい。
- ・若い人にとってはあまり興味がありそうな展覧会には見えない。メジャーすぎる。これでは一回くればいいと思ってしまう。
- ・静岡美術館はなかなかいけないのです。近くに美術館があります。
- ・ギャラリーには月一度位行っているが、美術館には本当に観たい時しか入らない。
- ・御担当者の意識の高さに敬意を表します。なかなか数値的に評価することが難しい問題です。子供たちに大きく意識を向けられることを、今後も努力されることを願います。
- ・“ふじのくに”を“富士の国”にしたほうがインパクトがある。
- ・県立美術館周辺を更に活性化させる必要がある。テーマパークなど。
- ・果たして文化が人に生きる喜びをもたらしているのでしょうか。
- ・公的支出の多い市民が、文化にまで興味を示し認識していくのは困難なことではないか。
- ・これほどの予算がかかっていることに驚きを感じた。
- ・美術館を訪れる人は余裕のある人のイメージがある。
- ・文化、芸術の細かい内訳が分からないので、細かく提示する。
- ・予算に対して、コストや数値が妥当なのかが分からない。予算の見方をしっかり説明することが必要です（数字の見方がそもそも追いついていけない）。
- ・美術館の必要性や、芸術、文化を大切にしていきたいことは分かるが、たくさんの普及事業や展覧会での入場者数に対する評価が、数字と比べても理解できなかった。
- ・第三者評価システムは良い。継続して改善に取り組んでください。
- ・前回事業仕分けの指摘事項への対応を検討したとあるが、その中身は。これと明示すべき。
- ・対策と成果指標が合致しているのか、よく分からない。
- ・予算の許す限り、様々な展覧会を開くとよい。
- ・大学生以下無料としてから、入館者層に変化はあったのか（この特徴を活かした施策は、なされればよいのでは）。
- ・静岡駅前の美術館は暇つぶしがてら行けますし、駅前にたくさんポスターがあるので、イヤでも目に入ってきて行こうと思うし、実際、友人も結構行っていますが、県美術館に行く人は周りにあまりいません。やはり、広報の仕方によるのかなと思いました。
- ・あまり稼げない職業の人は、なかなかお金をかけてまで芸術鑑賞をしないのではないか。目標90%は難しいかと。それこそ無料券をそういう職の人に重点的に配るとかしないと達成できないのでは。
- ・展覧会にターゲットにしている年齢層があるのならば、それに応じた効率の良い宣伝を行うことができるのか。
- ・1年間に何らかの文化・芸術活動を自ら行ったという基準は、どのようになっているかが気になった。
- ・専門委員の質問が、考えるべきこととそれる事が多すぎる気がする。美術館の運営事業のはずが、その他の質問が多く、何について考えるべきか分からなくなっている。
- ・“心の安らぎや、コミュニティ形成に多大な効果をもたらす文化力”とあるが、これが背景にあるから目標を設定するという考え方が分からない。
- ・もともと関心のある人が美術館に行くはず。
- ・県民は、「文化」として富士山を捉えていない。
- ・文化の維持（継承）といった点での対策はどうか。